



ひゅーまんらいつ

第122号 平成22(2010)年

よなごの人権フォーラム 10



竹田の子守唄

～ふるさとからのうたごえ～

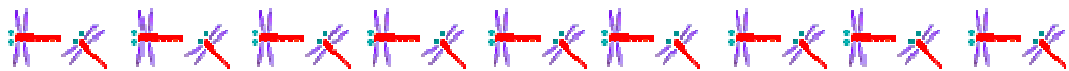


日時 12月4日(土) 13:30~15:30

ミニコンサート 部落解放同盟改進黨支部女性部のみなさん

解説 外川正明さん(京都教育大学教育実践総合センター教授)

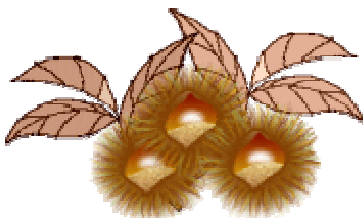
場所 米子コンベンションセンター 小ホール



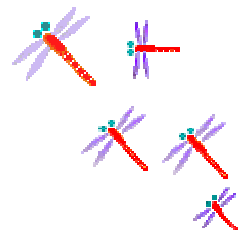
1970年代に、数多くのフォーク歌手によって歌われ広められた「竹田の子守唄」の原曲は、京都市伏見区竹田の被差別部落改進黨地区に伝承されてきた唄です。

明治の後期から大正期にかけて歌われたこの唄は、差別の厳しさと生活の貧しさの中で、家計を助けるため学校に行くこともなく子守り続けた10歳前後の女の子たちによって、歌い継がれてきました。現在14の歌詞が確認されていますが、ひとつひとつの歌詞に、こうした守り子たちの思いが込められています。

この原曲が伝承されてきた改進黨地区では、当時の守り子たちの子どもや孫に当たる世代の女性たちが、2001年に開催した「第6回ふしみ人権の集い」を契機に、これらを歌い継いでいく取り組みを始めました。それは、単に地元の歌を歌うということではなく、差別の中を生き抜き、差別のない社会をめざして子どもを育ててこられた先人たちの願いや思いが込められた文化としてこの唄を受けつぎ、次の世代に、そしてすべての人々に伝えていこうという取り組みです。



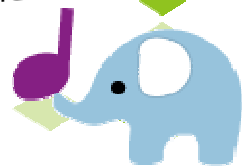
「人権文化の継承と創造」をめざして、部落解放同盟改進黨支部女性部のみなさんが歌う「竹田の子守唄」「竹田こいこい節」、そして「竹田長持唄」に耳を傾けてください。





「竹田の子守唄(元唄)」

この子よう泣く 守りをばいじる 守りも一日 やせるやら どしたたいこりやきこえたか	ねんねしてくれ 背中の上で 守りも楽なし子も楽な どしたたいこりやきこえたか	ねんねしてくれ おやすみなされ 親の御飯がすむまでは どしたたいこりやきこえたか	ないてくれなよ 背中の上で 守りがどんなと思われる どしたたいこりやきこえたか	この子よう泣く守りしよといつたか 泣かぬ子でさえ 守りやいやや どしたたいこりやきこえたか	寺の坊さん 根性が悪い 守り子いなして 門しめる どしたたいこりやきこえたか	守りが憎いとて 破れ傘きせて かわい我が子に 雨やかかる どしたたいこりやきこえたか
来いよ来いよと こま物売りに 来たから見もする 買いもする どしたたいこりやきこえたか	久世の大根めし 吉祥の菜めし またも竹田のもんばめし どしたたいこりやきこえたか	足が冷たい 足袋買つておくれ お父さん帰ったら買つてはかす どしたたいこりやきこえたか	カラス鳴く声 わしゃ気にかかる お父さん病気で寝てこざる どしたたいこりやきこえたか	盆が来たかて 正月が来たて 難儀な親もちやうれしな どしたたいこりやきこえたか	見ても見あきぬ お月とお日と 立てた鏡とわが親と どしたたいこりやきこえたか	早よもいいたい あの在所越えて 向こつに見えるは 親のうち どしたたいこりやきこえたか



被差別部落の歴史についての研究は、近年めざましい深まりと広がりが見られます。部落差別の歴史をどのようにとらえ、どのように活かしていくのか、今求められています。学校や地域で人権啓発・人権教育を推進しておられる方、必聴です！どなたでもご参加いただけますので、ぜひお越しください。

日時 12月3日(金) 19:30~21:00

演題 『部落史に学ぶ』

解説 外川正明さん

場所 米子市中央隣保館 (米子市富士見町50-1)

